

## 2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 2月 27日

所属・職名	政策情報学部専任講師	氏名	後藤 一樹
研究課題	移動と社会関係の再編成過程に関するビジュアル・ナラティブ研究		
研究キーワード	移動、モビリティ、地域社会、映像社会学、ビジュアル・ナラティブ	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>リサーチと映像制作の成果として、(1) 移動 (モビリティ) をテーマに、四国遍路を題材としたビジュアル・エスノグラフィを学会で上映し分析するとともに、撮影と上映の社会的意味を考察した。また、(2) 千葉県内では、本学が関わる地域連携行事「真間あんどん祭り」の準備段階から本番に至るまでの人びとのコミュニケーションのありようを記録映像作品として制作するプロジェクトに携わり、協力して下さった地域住民にお返しするかたちで映像を上映した。</p> <p>(1) と (2) の双方のケースから、新しい物語 (ナラティブ) の生成としての地域活性化には、外部から移動してくる人びとと住民との関わり合いが重要な契機となることが明らかになった。さらに、そうした関わり合いの具体事例を多角的に分析したり伝達したりするのに、ビジュアル・ナラティブとしての映像メディアが有用であることが示された。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等 (海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)</p> <p>【発表】パフォーマンス映像社会学——ビジュアルエスノグラフィの上映と対話の空間、カルチュラル・タイフーン 2019、2019年6月、慶應義塾大学</p> <p>【発表】「真間あんどん祭り」記録映像作品 (監修)、真間あんどん祭り 2019 上映会、2019年8月、千葉商科大学</p> <p>【発表】映像・感情・もの語り——質的社会調査におけるビジュアル・ナラティブ、日本質的心理学会第16回大会、2019年9月、明治学院大学</p> <p>3. 主な経費</p> <p>映像制作のため、カメラなどの撮影機材を購入した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)</p>			
(本文は1ページ以内にまとめること)			